

会 議 録

平成 26 年 3 月 28 日調製

審議会等名	平成 25 年度 第 2 回 生涯学習推進会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成 26 年 3 月 18 日 (火) 午後 1 時 55 分～ 3 時 15 分		
開催場所	三条市中央公民館 大集会室	傍聴者	1 人
		報道機関	なし
出席者氏名	生涯学習推進会議委員 丸山正夫委員 小林斉子委員		
	山川啓子委員 高橋美智子委員		
	佐々木昭雄委員 金井康子委員		
	皆川孝夫委員 野崎輝子委員		
	三条市	金子生涯学習課長	野村生涯学習課長補佐
	小林生涯学習推進係長 坂内副参事		
	伊藤主事		
議 題	(1) 三条市生涯学習市民意識調査結果の報告について (2) 第 2 次三条市生涯学習推進計画の策定について (3) その他		
発言内容等			
金子課長	定刻前でございますが、出席予定の方が全員お揃いですので、これから平成 25 年度第 2 回生涯学習推進会議を開催させていただきます。よろしくお願いたします。		
丸山会長	<p>本日はご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>ご承知のように、三条市生涯学習推進計画は平成 19 年 3 月に策定されて 7 年が経過しました。8 年ごとに見直しをするということですので、平成 26 年は最終年度になります。昨年 8 月に第 1 回の会議を行いましたときに、市民の意識調査を実施するという報告がありました。本日は、この内容が分析されたものが準備されています。この分析結果に基づいて、皆様方からご意見をいただき、新たに平成 27 年度からの第 2 次三条市生涯学習推進計画の策定を進めていただきたいと思います。</p> <p>本日は、佐藤委員と関川委員の 2 名が欠席となっておりますが、皆様方から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。</p> <p>それでは早速でございますが、議題に移らせていただきます。(1) 三条市生涯学習市民意識調査結果の報告について、事務局からお願いします。</p>		

金子課長	<p>私の方から説明させてもらいたいと思います。その前に、生涯学習推進会議の役割についてですが、計画策定とその進捗管理のうち、現在は進捗管理の方の役割を担っているわけです。昨年度は年2回ある会議の中で、中間報告と実績報告という形でやっておりましたが、昨年度の2回目の会議から、次回の生涯学習推進計画の策定に向けて、進捗管理における平成25年度事業の中間報告と前年の実績報告を併せてやらせてもらったわけでございます。今回につきましても、進捗管理を省略させてもらって、市民アンケートの調査結果の報告にさせてもらいたいと思っております。</p> <p>この市民意識調査の結果報告につきましては、お手元の調査報告書を事前にご配付申し上げましたし、参考資料についてもご配付申し上げたわけですが、それをご覧いただきながら説明をさせてもらおうと思っております。</p> <p><資料No.1、2に基づき、生涯学習市民意識調査の結果を報告></p>
丸山会長	<p>ありがとうございました。只今、金子課長からご説明がありました中からご意見をうかがっていきませんが、内容が非常に多岐にわたっていて、どこから切り込んでいっていいのか難しいところではあります。ですが、ざっくばらんに皆様方の気付いた点を出していただいて、それを集約させていただきたいと思っておりますので、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p><しばらくして、意見なし></p> <p>それでは、最初に私から意見を述べます。7ページの前回調査との比較で、「ほとんどの項目について増加していますが、特に公民館などの教室における学習が7.5ポイントの増加で最も増えている」という文言がございますが、グラフを見ると前回と比べて全て増加しています。前回と比較した時に、前回よりも増えた割合を参考にしたらよろしいのでしょうか。なぜ前回から全ての回答が増加しているのか、簡単にご説明いただけますか。</p>
金子課長	<p>増加した理由までは分析しておりません。いわゆる傾向だけ押さえているというような段階でございます。「幼児から高齢者まで生涯を通じて学ぶこと」、「趣味・教養を高めること」、「職業上必要な知識・技術を身に付けること」というイメージとして、全体的に定着しているようなことではないかと思えます。確かに、全体的に増加しているわけですが、申し訳ございませんが、理由までは把握していません。</p>
丸山会長	<p>続いて3ページですが、回収状況について今年は標本数が1,100人、有効回答数が356人、有効回答率が32.4%ということですが、前回の標</p>

	本数 1,100 はよいとして、有効回答数は 495、有効回答率は 45% でよろしいでしょうか。文書の中でそれらしい数字が出てくるのですが、前回調査との比較が載っていないのでお聞きします。
金子課長	前回の有効回答数は 495 人、有効回答率は 45.0% でございました。
丸山会長	標本数は同じですか。
金子課長	同じです。
丸山会長	それから、前にもお聞きしたのですが、抽出方法で「層化 2 段無作為抽出法」というのを、明解にもう一度お聞きしたいのですが。
金子課長	ただいま資料を探しますので、後程説明させていただきます。
小林委員	<p>今、ご説明いただきましたが、生涯学習の次のステップのために、調査報告書を参考資料にお出しになったと思うのですが、細かい数字だけで掴みきれられるものではありません。先程分析をしているとおっしゃったけれども、それは傾向の話をされています。分析の結果として傾向があるわけですが、全体像はこの数表だけでは掴めません。数を透かしてみると分析結果が出て、みんなの動向、考え方、これからの方向性、いろんなものが見えてくるわけです。そういうものを今ここに出されて、こと細かに数字のことをいちいちチェックして事務局とやりとりしても意味がないという気がしてなりません。専門家に確実に分析していただいて、この透かしてみる部分にはこういう計画を盛り込まないと、というところまでいかない、今私たちが聞いても薄墨の部分なのです。次の生涯学習推進計画をつくるために意識調査をして、その分析結果をお出しになっていますが、今日はそれを聞いて次のステップに進むというものではないのではないですか。私たちだけでなく、社会教育委員会にも資料を出されたのですから、当然同じテーブルで、同じ話を聞いて、分析をし、解析をし、次のステップへという順番があるのです。そういう方向の中で、私たちだけが先陣を切ってこのお話を聞く意味があるのか、明確にお答えいただきたい。</p> <p>もう一つは、数字も大変大事ですが、あくまでも数字は数字です。調査結果の数字がどこに、どうやって入り込むのかというのは、この数表だけではなかなか見えません。その部分は どうやって出るのでしょうか。</p>
金子課長	この調査結果報告については、社会教育委員会でも、時間がおして詳しくはできませんでしたが、報告はさせていただきます。この報告の一つの意図は、アンケートを作ってもらった会議に対して、報告を申し上げるということがあります。この報告を、さらに計画に高めるために、どの要素をどういうふうにするかというのは、ここで意見をもらってから、次の段階でつくらせてもらおうかというふうに思っております。

小林委員	ちょっと待ってください。次のステップというのは、すぐにワーキングに入らないで、まだワンステップあるという意味ですか。
金子課長	次にワーキングに入りますので、ワーキングの中で「アンケートの結果からこういう施策が導き出せるのではないか」ということを総括しなければなりませんと思います。
丸山会長	<p>今日の会議は、どこから切り込むかということで難しい面もありますが、これだけのアンケートをつくったわけでありまして、大量のデータを分析していただいたということで、その中から見えてくるものを少しでも探していきたいと思っています。8年前の計画と比べて今はどう変わっているのか、例えばここで見ますと「パソコン」というキーワードが非常に増えています。そういうものを少しでも皆さんからご意見をいただいて、それを集約していきながらワーキングに結び付けていきたいと思っています。</p> <p>特に、小林委員がおっしゃるように、数字だけ見ても分からないですから、私も前回と比べてどれくらいの増減があるのかということを確認したわけです。この中の文言から、皆さんが何かしら意識されたものがあれば、ご意見をいただきたいので、もう少し意見を出していただきたいと思っています。</p>
金子課長	その前に、先程会長から質問のあった「層化2段無作為抽出法」ですが、第一段階の抽出として、市内の調査地点を人口構成比で並べて抽出します。次に、第二段階において、調査地点に住所を有する者から無作為に相手を抽出するということとなります。それで「二層」ということなのだろうと思います。
丸山会長	地域と年齢構成も加味しているのでしょうか。
金子課長	年齢の構成に比例して配分しています。20代は少ない人口比率であるのに加えて回収率も低いので、非常に低い数字となっているということです。
丸山会長	それでは、ご自由に意見をどうぞ。
野崎委員	<p>61ページです。30代の方が託児所の設置を希望されていますが、現在公民館の中で講座を行う時に託児所を設けているのでしょうか。</p> <p>孫を近くの支援センターに連れて行くのですが、研修会になると、若いお母さん方が大勢集っています。そこには、専門の保育士さんが二人いて、子供を見てくださっています。研修会になると、車を停める場所がないくらいたくさんのお母さん方が集っているので、学びたい方々がいるのだなという思いがしていました。このようなものがあれば学びたいという方がいらっしゃるのではないかと考えておりました。現在はどんな感じなのでしょう。</p>
金子課長	講座によって違うのですが、今回行いました家庭教育講座については、託児所を設けました。また、文化の方ですが、コンサート等においても託児所を設けていますが、教室全部について設けているということではございません。

	ん。
野崎委員	今後もまたそのように託児所を設けたりはされるのでしょうか。
金子課長	講座によってきちんとした対応が必要だろうと思っております。
野崎委員	今後の生涯学習につながっていくので、若い方が学びやすいようにしてほしいです。若いうちから生涯教育はいいものだと感じてもらえたら、その世代から経験を積んで将来につながるかと思えます。
金子課長	おっしゃるとおりで、今は建物をつくるときに授乳室をつくるように指定がありまして、例えば三条東公民館をつくるときには授乳室をつくりましたし、図書館についても授乳室を敷設したという経緯があります。そういった子育て世代に合わせた施設の改良も、今後必要になるというふうに思っております。
丸山会長	他にございますか。 <しばらくして、意見なし> せっかく委員の皆さんがいらっしゃいますので、順番にご意見をいただきたいと思えます。
金井委員	すごく膨大な資料ですが、ここから見えてくるものが大事なのだろと思えます。その中で、77 ページの間 20「今後、みなさんの生涯学習活動をもっと盛んにしていくために、三条市はどのような力を入れるべきだと思いますか」で、「生涯学習関連施設などにおけるサービスを充実する」が 43.3%と高くなっております。具体的に「サービスを充実する」という文言の「サービス」ということを、どういうふうに捉えていらっしゃるのでしょうか。
金子課長	私どもの方では、この設問の「サービス」の中身につきましては、学習相談、あるいは利用者の目線に立った施設の使い勝手の良さや、貸出の仕方というようなことを想定しております。場合によっては、公民館だよりなどの学習情報をいかに効果的に流すかということも含むのかと考えております。
皆川委員	高齢化時代ですから、おそらく 3～4 年経つと 4 人に 1 人が高齢者になるので、待ったなしの状況です。それゆえに生涯学習は、高齢者の必修科目であると私は思っています。私自身はいろいろな施設を慰問していますが、各地域によって公共施設の使い勝手の良し悪しに非常に差があります。端的に申し上げますと学校です。学校の教室にしても体育館にしても、それを使用する際の窓口が 2 つも 3 つもあるような現状です。私の家の近くには小中一体校があります。お分かりのとおり条南小学校、第一中学校、四日町小学校はなくなりますが、南小学校はこれから変わるという話です。変わるのはいに結構ですが、前のように使い勝手が悪いかたち、要するに窓口が 3 つもあるような公共施設は、生涯学習をやるにしてもせっかくの施設が活かされな

	<p>いと思います。アンケートの7ページを見ると、まさにこれは一番大事なところではないかと思います。要するに「生涯学習という言葉からどのようなイメージを持つか」という設問で、20～30代の方が最も回答率が高いということです。数字だけでなく、いろいろな意味合いが入っています。</p> <p>それから、放課後子ども教室ですが、一昨年から若い人がスタッフに入ってくれています。人から推されたから、つまり行政から推されたから入ったということも多少はあるようですが、意外と社会に対する不安があるようです。社会情勢に対して不安に感じ、少しでも自分が生涯学習的な、子供教育的なものに関わって、自分の子供ではなく他人の子供もよく見てみたい、自分が学んでみたいという言葉が返ってきます。いろいろな面で市全体が生涯学習に対して前向きな姿勢が出てきているのではないのでしょうか。そうであればなおのこと、ハコモノだけではないでしょうけれども、こういうものに対して力をいれていただきたいと思います。</p>
丸山会長	それでは、佐々木委員、何かあればお願いします。
佐々木委員	<p>問15の学習成果を地域社会に活かしたいかという質問で、はいと答えた人が3分の1でしたが、学習する内容がみんなに行き届いていないという感じがします。この数字を上げる方法を何か考えていただければなと思いました。せっかく習ったのだから、少しくらい自分で役立ててよかったなと思えるような学習内容を増やしていただきたいければいいと思います。</p>
金子課長	<p>例えばパソコン教室があります。指導者が不足しているから、その指導者を育成するための教室を開くというように、活用の場が直結するような方策も必要かと思っております。こういう活用の場があるという情報を、一定期間募集したからすぐ終わりということではなく、毎年募集するというような地域への働きかけも大事なのかと思っております。</p>
山川委員	<p>私が問題意識を持ったのが、78ページの「生涯学習関連施設におけるサービスの充実」の「サービス」の内容に関連して、「住民のニーズや満足度などを把握」とありますが、利用する人のニーズや求めるサービス、意識をもっと明らかにするべきだと感じました。</p> <p>それと同時に、56、57ページを見ると、前回の調査にはなかった「パソコン・タブレット端末などを利用したインターネット学習」という、時代を表しているような学習ニーズがあるわけです。前回の調査にはなかった項目を選んでいる方がいるということは、ここはものすごくヒットするところではないかと私は捉えました。</p> <p>また、別の立場で考えると、子供たちはすでにインターネットあるいはパソコンを習っているので、それが使える状態で世の中に出ていきます。そうしたときに、三条市で広める生涯学習の中身は、子供たちが身に付けた技術を利用してできる、ニーズにあった何かを用意していかないといけないので</p>

	<p>はかと思えます。子供たちが年齢を重ねていくと、おそらく生涯学習の求めるものも変わってくるのではないかと調査結果から感じました。学校教育の中では、かなりパソコン、タブレット、インターネット等の利用の仕方を学んで社会に出るので、ニーズにあったものを考えてもらえれば良いと思います。</p>
高橋委員	<p>78 ページの問 20 で「ボランティア活動を支援する」という具体的な内容について、お答えいただければと思います。</p>
金子課長	<p>ボランティア活動を支援するというのですが、こういった場所で活動の機会があるというような情報提供ですとか、相談いただいた方に対してこういう方法で地域に入っていったらどうですかというアドバイスのようなことだろうと思います。公民館の中で金銭的な支援はやっていないものですから、相談事業・情報提供というようなことになろうかと思えます。</p>
小林委員	<p>行政側として、このアンケート結果を受けていろいろなことが出てきていると思いますが、ご自分達の総合的な評価はどの辺だと思えますか。</p>
金子課長	<p>全体を通してでございますか？</p>
小林委員	<p>はい。個別のことはお聞きしません。</p>
金子課長	<p>学習活動をされている方、あるいはボランティア活動をされている方の数値等を見ますと、伸びとして、私どもが「生涯学習を推進している」と思っていることに比べて、なかなか拡大していないとか伸びていない、むしろボランティアの方は減少していたりするわけですが、そういった厳しい現実的な評価にならざるを得ないというのは感じているところでございます。</p>
小林委員	<p>それは個別の話でなく、全体ということによろしいですか。</p>
金子課長	<p>そうです。</p>
丸山会長	<p>いろいろなご意見が出てきましたけれども、他にあればご意見を出していただければと思います。</p>
金子課長	<p>今の小林委員の質問とは関係ないのですが、皆川委員の時に言い忘れたことがあります。嵐南小学校の件で触れられましたが、新しい小中一貫校には、「地域交流拠点施設」というものが設けられています。その活用について地域の人たちが自主的に活用してもらいたいということで設けられた施設でありますので、一ノ木戸小学校、それから今度は嵐南小学校で検討委員会がつくられまして、私どもも公民館の立場からそこに入って、どういう使い方がいいのかを考えていくような場面がすぐ出てこようと思います。こういった使い方がよいという意見を反映させる場があると思っております。</p> <p>具体的には、嵐南小学校だと嵐南公民館の職員がそこを活用する方策を考えております。</p>

丸山会長	後半の 118 ページの「その他」での自由記述というものも非常に大事です。講座を受けたい人の時間が合わないなど、夜間や土日の夜などの開催に関する意見がいろいろ出ています。特に意見があった場合に記入してくださいということですから、それだけ要望が多いのではないのでしょうか。夜間というと、普通は午後 7 時くらいからというふうに思いますけれども、それを 9 時から始めて 12 時まで、ということを示唆しているように思います。公民館の開館時間が 10 時までですから、8 時から始めて 10 時までという時間になるのでしょうか。そういうことに対してご意見はありますか。
金子課長	通常午後 10 時までという開館時間の中で、夜間で受講できない方、これは日頃働いていらっしゃる方と推定していますが、こういった方については、講座の土日開催で、というようなことにならざるを得ないのではないかと考えております。
丸山会長	その他にございますか。 くしばらくして、質問なし> 報告については以上でよろしいでしょうか。
金子課長	それでは小林委員が指摘されたように、調査から見てきたものについて、私どもの方で計画に活かせる形で、次の段階の資料を作るということで進めさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。
丸山会長	それでは、(2) 第 2 次三条市生涯学習推進計画の策定について、事務局から説明をお願いします。
金子課長	<資料No.3 に基づいて説明>
丸山会長	ありがとうございました。ただいまの説明に対して、ご意見はございますでしょうか。
小林委員	今説明していただいた中で、スケジュール表を見ますと、庁内ワーキングで出来てきたものを 6 月と 10 月の 2 回の合同会議で検討して、またワーキングの方に戻しながら進めていくという方法でした。やり方の問題なのですが、社会教育委員も同じだと思われそうですが、私たちの通常の任務を果たしながら、このワーキングでこれだけのものをつくる作業ができるのかどうか、というのが一つあります。おそらく社会教育委員さんも、膨大な審議時間をとって時間が足りないくらいの審議をおやりになっています。生涯学習推進会議も、進捗管理の部分で資料を見ながら審議する中でこの計画をつくるのは大変な作業だと思います。大変さを皆さんもお分かりになると思います。そこで提案なのですが、昨年度の社会教育委員会会議のときに、次期生涯学習推進計画は社会教育委員会と生涯学習推進会議の合同でやるということを決まりました。この場でその方向性を示していただきたいと思います。皆

	さん全員でやるということは難儀な作業になりますので、社会教育委員会議と生涯学習推進会議の両方から何人かを選出いただいて、そこで合同の会議をもっていただいて策定に入るというふうな手順はいかがでしょうか。
丸山会長	今ご意見がございましたように、予定表を見ると、生涯学習推進会議と社会教育委員会議の開催が同時になっていますが、一緒にやるという意味なのでしょうか。
金子課長	同じテーマを2回に分けてやるよりも、一緒にやった方が、ある程度他の会議の委員さんの意見も直接聞けるので、一緒の方がよいのかと思っております。
小林委員	社会教育委員会議と生涯学習推進会議と別々にやるということではなく、一緒の会議をもつというふうに理解してよろしいですね。
丸山会長	そうですね。その一緒の会議が3回の予定ですが、これでまとまるようにやるということです。
金子課長	社会教育委員会議から日頃言われていますが、社会教育という立場は生涯学習の中核的な位置付けであるので、この計画づくりでは参画したいというようなことですので、お願いしたいと思います。
丸山会長	たしかに第1次の生涯学習推進計画をつくるときには、20名くらいの委員で案を揉んだように思いますが、やはり大勢のご意見をいただきながら、よりよい推進計画を策定した方がよろしいかと思っておりますので、よろしく願いいたします。
金子課長	それで、小林委員さんがおっしゃったのは、合同会議は合同会議として、ある程度抽出された委員さん6～7人の小回りの利いたワーキングということでしょうか。
小林委員	そういうことでございます。
金子課長	それについては、社会教育委員会議でその手法についてお聞きしていなかったもので、会長さんと協議させてもらい検討させてもらいたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。
丸山会長	そういう方向でよろしゅうございますので、よろしくをお願いします。 今の資料の中で、「各種計画との整合性」とございます。第2次新潟県生涯学習推進プランというのがすでに出来上がっているわけですが、皆さんに配付してもらうことはできますか。
金子課長	概要版でございますが、後程お上げさせてもらいたいと思っております。
丸山会長	次期総合計画は、まだ出来上がってはいないのでしょうか。
金子課長	平成26年度で策定して、平成27年度からやるものですから、今はどういう視点でやるかということは決まっています、「人口減少」に対してどうするか、それから「少子高齢化」に対してどうするかという二つの視点でつくる

	うということになっております。そこから生涯学習は何ができるか、環境は何ができるかといったやり方でやっていて、いわゆる総花的ではない総合計画で進んでいるようではございますが、資料として提出できるような形にはなっておらず、下調べの段階でございます。政策推進課の方で進めている段階でございますので、よろしく申し上げます。
丸山会長	整合性を図るということで、気になります。その他にございますか。
小林委員	先ほどの話に戻りますが、社会教育委員さんとの協議が終わらないとワーキングの人選も確定できないということでしょうか。
金子課長	もし人選される場合、委員長・副委員長にお任せいただければありがたいのですが。 <一堂、賛同>
丸山会長	説明させていただきましたが、全般にわたって質問などがあればお願いいたします。 <しばらくして、質問なし> ご意見もないようですので、これで閉めさせていただきます。最後に山川副会長から挨拶をお願いします。
山川副会長	大変お疲れさまでした。たくさんの資料を基に、みなさまから意見をいただいて、次のステップへ進められたらと思います。三条市に暮らす一人一人の子供たちが、また大人たちがいい生涯学習にめぐり合えて、いい人生を歩んでいただければなと思っております。今日はありがとうございました。

午後3時15分閉会